



## 上海日本人学校に赴任して

### 1. はじめに

平成24年4月から平成26年3月の2年間、上海日本人学校に虹橋校に勤務した。日本全国、世界各国から集まる熱意ある教職員、現地スタッフと共に仕事のできたこの2年間は、私の教員生活の中で一生忘れることのない貴重な経験となった。この間、子どもたちとの思い出もたくさんできた。どれもかけがえのない思い出だ。また、私生活でもたくさんの現地の人、日本人との交流があった。異国の地での生活に戸惑いながらも、多くの方にお世話になり、おかげ様で大変充実した2年間を送ることができた。以下に中国上海の現地の状況と上海日本人学校虹橋校での教育活動を紹介する。

### 2. 中国・上海の概要

中国は日本の26倍という広大な国土と5千年もの歴史を持つ国である。2008年には北京でオリンピックが開催され、2009年は建国60周年、さらに2010年には上海万博が開催された。目覚ましい勢いで変わっていく国、まさに不易流行を地でいく国だ。

上海市は、日本の佐多岬(鹿児島)とほぼ同じ緯度に位置しているが、貿易風帯に属しているため、夏は太平洋高気圧の影響で南東風が強く、高温多湿となっている。また、冬はシベリア・モンゴル方面にある高気圧の影響で北西風が強い上、空気も乾燥して冷たく、足元から冷え込む寒さである。四季ははっきりしていて夏と冬が長く、春と秋が短い。動植物も日本とほぼ同じで、春4月になると、郊外の畑に菜の花が咲き始め、6月には街路樹の泰山木(上海市の市木)が白い大きな花をつける。道端の雑草もほぼ日本と同じである。

アヘン戦争後にヨーロッパの列強諸国の疎開地になったため、現在でも旧疎開地には、ヨーロッパの街並みが存在する。一方、上海市は人口2415万人を有し、現在は建設ラッシュで近代的高層ビル・高層マンションが立ち並んでいる。西欧諸国からの駐在員も多く、開放的な街である。とくに、日本人は、短期滞在者も含めると10万人が暮らしているといわれている。

### 3. 上海日本人学校虹橋校の概要

上海日本人学校の前身は、日中国交正常化3年後にあたる昭和50年2月7日に発足した「上海補習校」。当初は週一回の授業しか行っていなかったが、間もなく全日制の補習校となった。そして、昭和62年に「日本人学校」として正式に設立され、今年度で27年目を迎えることになった。

平成8年6月に校舎が建てられるまでは、会社の一部や現地の小学校を借りていたが、その後の児童・生徒数の急増に伴って校舎は増築され、現在は、2階建ての南館、3階建ての北館、第一体育館に加え、屋内プール、第二体育館、パソコン室などのある5階建ての東館でも、授業が行われている。平成11年度に600名あまりであった児童生徒数は、平成13・14年度の間に約1.5倍にまで膨れ上がり、平成16年度1817名と一気に激増し、平成17年度には2000名の大台を突破した。



上海は中国の中でも商業や経済のほか、ファッションなどの流行の最先端を行く街としても有名であり、地理的にも日本と最も近い街である。そうした利便性などから、日本企業や日本人の進出は顕著であり、在留邦人の数も増加の一途をたどっている。

この児童生徒数の増加に対応するため、平成18年度、新たに「浦東キャンパス」が開校し、これまでの虹橋キャンパスには小学生だけの48学級、浦東キャンパスは小学部17学級、中学部15学級、計32学級が設けられた。平成25年度については以下の通り。

**児童数（平成25年4月11日現在）**

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	虹の子	合計
男子	128	155	145	127	131	92	6	784
女子	141	119	140	141	102	111	0	754
合計	270	275	285	269	236	203	6	1,538
学級数	10	9	9	8	7	6	1	50



児童の登下校は、平成13年度より自主登校制になり、大多数の児童生徒がマンション専用バスや自家用車、タクシー等で市内各地から登校している。

**4. 上海日本人学校の教育活動の特色**

① 外国語教育

中国語会話と英会話を全学年で実施するなど海外日本人学校としての特色も取り入れている。特に英語教育では、毎朝8:35～8:45に「イングリッシュタイム」を設け、普段から英語に触れる機会をつくっている。

中国語は上級・中級・初級のレベル別、英語は、1クラスを2つに分けるなどして、いずれも少人数で行っている。



○中国語の授業の様子



○英語の授業の様子

② 上海タイム

「総合的な学習の時間」を「上海タイム」と呼び、現地校との交流、各種の体験、見学活動など、中国あるいは上海でしか経験できないような活動を通して、中国理解、日本理解、国際理解、自己理解、人間理解を念頭においた教育活動を展開している。

③ 社会科副読本

社会科学習などにおいては、自主制作副読本「上海」を活用した授業も行っている。また、消防署やごみ処理場などの校外学習もスタッフや通訳ボランティアの協力のもと、行っている。



○ごみ処理場



○バイク工場



○いもほり



○動物園

④ 読書環境

毎朝8:10～8:20は「読書タイム」として、朝読書の時間がある。図書室は、低学年用、高学年用と2つある。図書スタッフ2名、図書ボランティア（保護者）により、常に図書室が管理されている。月に1度の本の読み聞かせ、図書室の掲示、新しい本の製本、図書だよりの発行、授業で学習した内容の関連本の準備等、図書スタッフたちのおかげで、とてもよい環境になっている。



### ⑤ スキルタイム

火・木・金曜日の6時間目終了後、15:35～15:45に「スキルタイム」があり、国語や算数などのドリル問題を行い、学力向上を目指している。

### ⑥ 充実した教育環境

- ・室内プール…東校舎の2階に温水プールがある。校医、水泳スタッフが常駐している。また、保護者もボランティアとして水泳の学習に参加してくれる。3クラス合同の水泳の授業に大人が10人以上で指導にあたることことができる。
- ・視聴覚機器…全教室にパソコン、スクリーン、プロジェクターが設置されている。また、校内はLANでつながれており、教室や特別教室でもインターネットを使ったり、校内サーバーのデータを共有したりすることが可能である。イングリッシュタイムは、毎日パソコンを使い、パワーポイントなどを使って行うことができた。また、運動会の演技や応援練習も動画を見ながら教室で練習をすることができた。



### ⑦ チャレンジタイム

チャレンジタイムという中国文化を学ぶ活動がある。京劇やカンフー鑑賞、中国の伝統料理を作る体験などが各学年で行われている。私が担任した4年生では、中国雑伎団の方を招き、目の前でプロによる雑伎を見たり、実際に体験したりすることができた。また、5年生では、「上海宝成龍獅団」の方々に来ていただき、獅子舞等の鑑賞・体験を行った。地方によって異なる数種類の獅子や龍、虎、太鼓などを目の前で見る事ができた。



○獅子舞、龍の舞



○京劇



○花文字



○中国雑伎

### ⑧ 現地校との交流

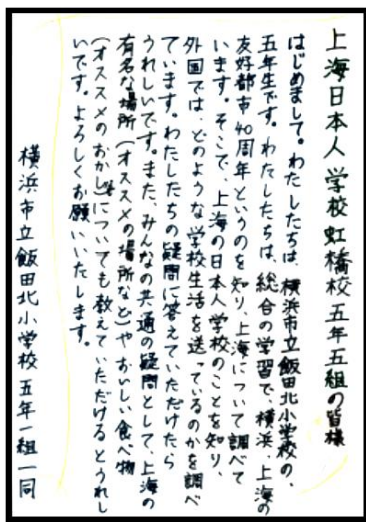
例年、各学年2回程度、上海学校、日新実験学校、協和双話尚音学校等の上海市内の小学校と交流をしている。一緒にカルタをしたり、歌を歌ったり、子ども同士の交流も行われている。

私が2年目に担任した5年生では、1回目は11月に吳涇第三小学校で、餃子づくり体験、歌の披露、プラフープリレーなどのレクを行った。2回目の交流は2月に日本人学校にて名刺交換、折り紙・あやとり体験、大玉送りなどを行った。お互い言葉はうまく通じなくても、活動を通して日本と中国の児童の交流を深めることができた。



### 5. 日本の学校との交流

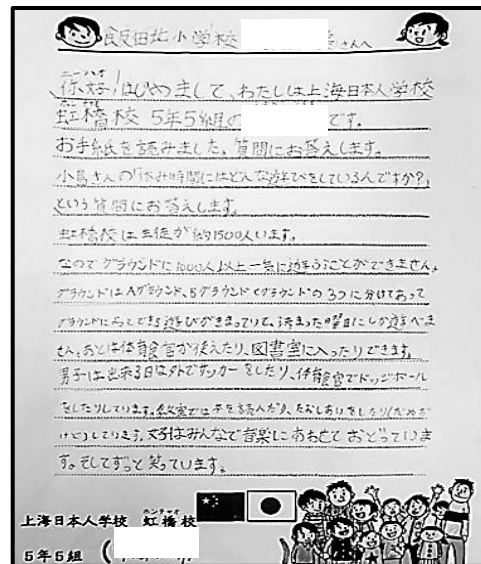
私の知り合いの神奈川県教員から連絡があり、横浜市立の小学5年生と、私のクラスの児童で手紙を通じた交流を行った。日本の学校の子どもたちからの質問に答えたり、中国や上海の文化を紹介したりした。子どもたちは、自分たちとの共通点がたくさんあることに気づくとともに、上海ならではの学校生活を送っているということを改めて実感したようだった。



○横浜の小学校からの手紙



○返信で中国文化の紹介



○返信手紙

## 6. 上海市の教育事情

2010年12月に発表された、経済協力開発機構（OECD）による国際学習到達度（PISA）調査によると、調査に参加した世界の約47万人の生徒の中で、初参加だった上海の15歳の生徒が読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野において全て首位の成績を収めた。このように世界のなかでも高い教育水準を誇る上海の教育事情について調査・研究していきたいと考え、私は、現地教育事情の調査・研究を「上海市の教育事情」というテーマで行ってきた。学年で行う児童同士の交流会（前述）の他、職員研修で行った現地校視察、現地校の先生との交流会、中国人スタッフや知人への聞き込みなどを通してわかったことがたくさんあった。

調べて感じたことは、中国の教育水準の高さだ。学習内容も、日本の同じ年齢の児童が学習している内容より高度だった。また、各教室の教具の設備が充実していた。すべての教室に大きいスクリーンと、インターネットが使えるパソコンがあった。教科担任制のため、教師が教材を準備する時間があるため、毎回の授業はPPTなどを使ったものが多い。上海市で、教育機器を整備したり、教材を作成したりしていて、政府も教育に対して熱心なことがわかる。職員交流を通して感じたのは、中国の教師も児童の学力をつけるために、教材研究、教材準備等に、熱心に教育に取り組んでいた。日本の教員と変わらないことがわかった。児童の様子は、学習への意欲が高く、授業に真面目に取り組む子が多い様に感じた。休み時間の様子を見ると、友達と楽しそうに遊んでいて、日本の子とかわらないと思った。

## 7. おわりに

在外教育施設で働きたいと思ったのは、私が高校生の頃だ。かねてからの希望であった日本人学校での教員生活。期待とともに異国での生活に対する不安も少なからずあった。しかし、赴任直後から、先輩方の温かい歓迎やサポート、現地の方の協力のおかげですぐに仕事や生活に慣れ、本当に充実した日々を過ごすことができた。

派遣1年目の2012年、日中国交正常化40周年を迎えた。上海日本人学校では日中友好をテーマに行事に取り組んでいた。しかしこの年、日中関係の情勢が不安定な局面を迎え、中国に住むわたしたち日本人に大きな影響があった。さらにPM2.5などの大気汚染・鳥インフルエンザ問題も起こった。臨時休校、運動会の延期、現地校との交流会の中止等、日本人学校だからこそ直面する困難を経験することができた。そんな状況の中、心に残っていることがある。それは、反日デモがあった日、自宅待機をしていたときのことだ。中国人の知人が「外に出歩けなくて困っているでしょう。ご飯は食べられていますか？大丈夫？」と私の自宅に手作りの食べ物をたくさん持ってきてくれたのだ。他にも中国の方の温かさや優しさを日々感じることもできた。

全国各地から集まった先生方には、教育に対する情熱や向上心、幅広い教育的価値観を学ぶことができた。中国で出会った仲間との交流を通して互いを認め合い、思いやる大切さも実感することができた。私は校歌の中の「虹の架け橋」という歌詞が大好きだ。日中の架け橋、世界と日本の架け橋がどんどん広がっていくよう、微力ではあるが、上海日本人学校での経験を生かして、今後も教育活動の充実を図るように取り組んでいきたいと思う。

貴重な経験を与えてくださった滑川町、埼玉県をはじめとする関係機関の皆様、一緒に上海で過ごした方々にこの場をお借りして、お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。